

別表6 町別、事故種別救急車出動状況（平成16年）

町別 種別	由岐町	日和佐町	牟岐町	海南町	海部町	穴喰町	鷺敷町	相生町	その他	計
火 災								1		1
自然災害										
水 難			1							1
交通事故		41	29	22	4	11	23	12		142
労働災害			1	4	3	1	3	3		15
運動競技				1		1	1	1		4
一般負傷		49	44	42	26	19	29	18	2	229
加 害				1		2	1			4
自損行為		1	2	2		1				6
急 病	2	109	168	193	79	76	80	41	1	749
転 院 等		34	97	26	6	5	16	26	2	212
計	2	234	342	291	118	116	153	102	5	1,363

☆ 由岐町は、単独で救急車を運行している。

3 自然災害発生状況

自然災害発生による消防団の主な出動記録は、次のとおりである。（昭和55年以降）

(1) 水 害

- 平成2年9月19日 台風19号接近による警戒・見回り。
- 平成5年8月10日 台風7号接近による警戒・見回り。
- 11月13日 集中豪雨による警戒・見回り。
- 平成9年9月16～17日 台風19号による洪水により東町、土佐で床上浸水5棟・5世帯12人、床下浸水4棟・7世帯13人、非住家7棟浸水、農地の冠水（田29ha・畑4ha）
- 平成10年9月21～22日 台風7号による洪水により東町で床下浸水13棟及び田畑の冠水。
- 平成15年8月8日 台風10号による洪水により東町で床上・床下浸水の被害が発生した。
- 平成16年8月1日 台風10号による警戒・見回り。
- なお、7月31日から8月2日にかけての台風10号により上那賀町、木沢村において大規模災害が発生した。
- 上那賀町海川で8月1日の日降雨量が1、317mmに達していた、これは四国電力の観測所の記録で、気象台のデータではないものの、気象庁が日本最高としている1、114mm（昭和51年木頭村日早）を上回る記録である。

(3) 水害訴訟裁判のその後

昭和46（1971）年8月30日、室戸岬に上陸した台風23号は同日午前8時頃より徳島県南部地方に豪雨をもたらした、この影響で那賀川が氾濫。下流の当町では、和食東町を中心に大正7年の大洪水以来の大洪水を蒙った。当町和食地区の128戸の家屋が浸水被害を受けたほか、田畑（90ha）が冠水するなど計1億7千8百万円に及ぶ被害を出した。出水の状況が異常であったため、被害者は昭和46年9月4日「ダム人災同盟」を結成し、「ダムの無謀放水による鉄砲水だ」との疑いを強め、「長安口ダムの放流ミスが原因」として県を追求。県当局は見舞金として1千万円を支給したが「ダム操作ミスは否定、あくまで集中豪雨が原因であり、自然現象によるもの」との主張を変えずその責任を回避した。県の主張に納得の行かない被災者は、水害原因の調査を日本科学者会議へ依頼、その結果が、「ダムを企業本位に作動したことにある」との結果が出るに及んで、被災者64名が「鷺敷町ダム被災者同盟」を結成し、昭和50年2月21日、国と県を相手取り徳島地裁へ提訴したものである。

経 過

日本科学者会議では、東大山崎教授、国土問題研究所の木村京都教育大教授等が調査を行い、「水害の原因はダムを企業本位に作動したことにある」との結果がでた。

そこでこの結果をもって知事と長安口ダム所長を昭和47年9月5日「溢水罪」で告訴したが1年後に証拠不十分で不起訴処分になった。

その後、昭和50年2月21日、特に被害の大きかった64名が損害

(2) 土砂崩れ

昭和60年 仁宇字学原の住宅裏山で土砂崩れが発生、1名が死亡した。

8月8日 木沢村へ応援出動（行方不明者捜索）

平成16年10月20～21日 台風23号による洪水により、東町、八幡原、北地において、住宅浸水及び田畑の冠水の被害が発生した。  
床上浸水38棟・38世帯、床下浸水14棟・14世帯、事業所の浸水2カ所  
なお、平成16年は例年に比べ多くの台風が四国周辺に影響した年であった。

る。7月31日から8月2日までの降雨量が2、050mmに達しており、今回の豪雨の激しさを物語っている。

木沢村で死者2人、家屋の損壊13戸、床上・床下浸水11戸。  
上那賀町で家屋の損壊17戸、床上・床下浸水14戸。

山腹の大崩壊や土砂崩れの発生により道路網が寸断され集落が孤立、木沢村では一時住民の70%を超える人達が避難生活を強いられていた。上那賀町でも海川、白石・一宇地区住民186世帯が土砂崩れなどで孤立したほか、多くの住民が自主非難を余儀なくされた。